



# ラーチャブルック ราชพฤกษ์

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

校長 谷口 幸一郎

## 8月をむかえて

バンコクの街は、ひっそりと静まりかえっています。「明日はきっと」「来月こそは」という願いもむなしく、8月を迎えてしまいました。耳を澄ませば、たくさんのため息が聞こえてくるようです。

バンコク日本人学校では、タイ政府の指導のもと、登校が許可された場合にすみやかな対応ができるように1学級あたりの子供たちの数をすべての学級で25人以下に調整し(タイにおける中学部は30人以下を25人学級に再編制)、様々な準備を進めてまいりました。しかしながら市中のコロナ感染者は日を追うごとに増え続け、政府からの規制指示が解かれないうまま1学期を終了することとなってしまいました。

皆さまにはこの間、オンデマンド型(配信)授業、双方向型(ミート)授業に対するご理解とご支援をいただき、ありがとうございました。ロックダウンに近い状態が続く中で行われたパソコンの授業においては、学年ごとにそれぞれの難しさが伴ったことは、想像に難くありません。とくに小学1年生は、初めての学校授業ということでの戸惑いも大きかったことでしょう。本当に、子供たちはよく頑張ってくれました。それと同時に、いつも子供たちに寄り添い、支え続けてくださった保護者の方々のお力添えにも、心からの敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

ご案内の通り、子供たちの学校での生活や学習等の状況を保護者に伝えるものとして、「通知表」があります。本年度は、コロナ禍により登校ができていない状況下での評価が難しかったため(子供たちの学校での生活や学習などの様子が分からず、評価の材料が不足していることから)、2学期に通知表の配付をすることになりました。これからは理解度確認のテストだけでなくできる限り多くの評価材料を集めて、学年間はもちろん校種間での情報を共有しながら、より適切な評価を行ってまいります。なお、通知表の配付時期について、6年生や9年生では中学・高校入試に係わる調査書への心配をされている方が見受けられますが、そちらへの影響はありませんのでご安心ください。また、転学における成績についても、公簿である指導要録(指導記録、学籍記録)の写しに加えて、転学先からの問い合わせ等に確実に対応できるよう体制を整えています。

## 一時帰国について

学校とは本来、子供たちが同じ空間や時間の中で様々な活動を通して共に学び合い、学力や体力、そして道徳性や社会性を育む場であるはずですが。ところが現在、バンコクにおいてはタイ政府の指示により、教育活動がオンラインによる授業だけに限定されており、子供たちが教室で学ぶことのできない日が続いています。本校においては、学校の機能を果たせるように職員が一丸となって日々、配信授業等の工夫に取り組んでいますが、隔靴搔痒の感があることは否めません。

このような中で、コロナ感染からの退避や感染リスク軽減のためのワクチン接種、さらには子供の就学保障の観点などから、一時帰国を余儀なくされている方々がいます。バンコクを離れたくない、バンコク日本人学校に子供の籍を置いておきたい。その方々のお気持ちを思うと胸が痛むとともに、それが日本人学校へのリスペクトであると感じています。画面越しとはいえ子供一人一人と向き合い信頼関係が生まれつつある中での別れは、教員にとってもつらいものです。しかし、学校という存在の原点に立ち戻って子供たちの長い人生を考える時、何が一番大切なのかを判断の基準にしなければならないと、私たちは考えています。具体的に言えば、次のような選択肢がある時、どちらを選ぶべきなのか、ということがポイントとなります。

① 家で、配信されてくる授業だけを見る。

② 学校に通い、友達と一緒に勉強し、遊び、給食や掃除をし、運動会などの学校行事に参加する。

残念ながら現在のところ、バンコクの子供たちには、①の選択肢しかありません。では、日本に一時帰国して、仮に①と②の選択肢がある場合ならば、どちらを選ぶべきか。①と②を両立させたいという案があるかもしれません。そうなると平日は日本の学校に通い、土日はもっぱら本校の配信授業を見続けることになり、子供の身体的負担は大変なものです。一方、②を選択すれば、短期間の体験入学となるため、子供の心理的負担が大き過ぎるという不安もあるかもしれません。でも、それでは帰国して手にするせっかくの機会を子供から奪うことにはならないでしょうか。新しい友人に出会うこと、いつもと違う文化やものの見方を知ること、自然に触れること……とくに今、コロナ禍は世界各地で異なる様相を呈し、各国政府の対応や人々の受け止め方は実に多岐にわたっています。そんな中で複数の国を移動できるということは、世界の多様性を肌で実感できる瞬間でもあるのです。バンコク日本人学校の子供たちに期待されているものは、柔軟な感性を持ち、グローバルな視点から物事をとらえる人になることです。日本と海外での暮らしを経験することで人としての基礎をしっかりと作り、いつか大きく世界に羽ばたく人となることです。一時帰国される方々は、絶好の機会が与えられたと考えて、バンコクに居てはできない体験をさせてあげてください。そして一時帰国の期間が過ぎたら必ず、バンコク日本人学校へ帰ってきてください。お子さんのクラスも、名前の書かれたイスも机もそのままに、私たちは皆さんの帰りを待っています。(ただ、どうしても難しいケースがあると思います。そのような時には、遠慮なく相談してください。)

帰国の際に、もう一つだけ心に留めておいていただきたいことがあります。少し難しい話になりますが、バンコク日本人学校は、学校教育法第1条に該当せず、「授業目的公衆送信補償金規定外の扱い」の対象校外となります。すなわち、教科書等を含めた授業はあくまでもタイ国内での視聴を前提に配信が可能になっています。それを日本で見ることで本校の授業日としてカウントすることは、改正「著作権法第35条」(令和3年4月1日施行)に抵触することになります。同時に、日本人学校が配信授業の視聴を子供に強要するとともに子供たちに法を犯すことを指示していることになるということです。なお、本年度の配信授業については、新学期が始まる前に著作権協会に相談し確認をとった上で、配信をスタートさせています。

ここまで帰国される方のお問い合わせを中心に話してまいりましたが、実際には、タイで生活し続ける方々やバンコクから離れたたくても予定が立たない方々が多数いらっしゃるのが現状です。コロナ禍におけるタイの厳しさは、この地で暮らしている人にしか分かりません。外出が厳しく制限されているバンコクでは、青空の下で子供たちを思いっきり遊ばせてあげることも、誰かと会って笑い転げることも叶いません。時には孤立感や無力感から、感情が爆発したり、落ち込んでしまったりすることもあるかもしれません。でもそれは、だれのせいでもありません。この状況では誰にだって起こりうることなのです。大丈夫です。子供たちは、ちゃんとわかっています。自分自身や愛する人たちの身に起きていることを、しっかり受け止めています。子供たちは、私たちが思う以上に強靱で、しなやかな力を隠し持っています。どうか、お子さんの中に秘められた可能性を信じてください。そして、お子さんを慈しむのと同じくらいにご自身のことも大切にしてください。

コロナの時代を生きていくことは、本当に大変です。ところが、「大変」は、何か「大きく変わる時」でもあるのです。「大変」を嘆くのではなく、いったい何が「大きく変わろう」としているのか、その何かにじっと目をこらし、耳を澄ましてみる。今が大きな変革の時であることを意識するだけで、世界は少し違って見えてくるはずです。

今は未来を思い描けなくても、いつの日にか、必ず新しい風が吹いてきます。その時、私たちの子供たちが新しい世界に向かって大きく羽ばたいていくことを信じて、この時代をともに生きていきましょう。

# 令和3年度 夏休み作品コンクールのお知らせ

夏休み作品コンクールの一覧となります。以下の応募作品名で検索すると、各ホームページが見つかりますので、ぜひ、各ご家庭にてチャレンジしてみてください。(以下は、全て個人で応募できるものとなります。)

NO	応募作品名	対象	締切日
1	第1回「わたし発、世界行き∞」プロジェクト <a href="https://www.joes.or.jp/kojin/wataseka">https://www.joes.or.jp/kojin/wataseka</a>	小5～中	8月31日
2	第89回 全国書画展覧会 <a href="https://www.shogaten.com/2021/07/01/555/">https://www.shogaten.com/2021/07/01/555/</a>	小・中	9月6日
3	第12回 花王国際こども環境絵画コンテスト <a href="https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210426-001/">https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210426-001/</a>	小・中	9月6日
4	第37回 「小さな親切」はがきキャンペーン <a href="https://www.koubo.co.jp/contest/literature/essay/107710.html">https://www.koubo.co.jp/contest/literature/essay/107710.html</a>	小・中	9月8日
5	第71回 全国小・中学校作文コンクール <a href="https://info.yomiuri.co.jp/contest/edu/sakubun.html">https://info.yomiuri.co.jp/contest/edu/sakubun.html</a>	小・中	9月8日
6	第15回 「いつもありがとう」作文コンクール <a href="https://www.manabiasahi.com/concour/993">https://www.manabiasahi.com/concour/993</a>	小学生	9月10日
7	JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト <a href="mailto:https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/essay/index.html">mailto:https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/essay/index.html</a>	中学生	9月11日
8	第2回 SDGs 全国子どもポスターコンクール「SDGsを広めるポスターをつくろう」 <a href="https://www.cu-kunitachi.or.jp/sdgs-poster/">https://www.cu-kunitachi.or.jp/sdgs-poster/</a>	小・中	9月15日
9	第16回「科学の芽」賞 <a href="http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/kagakunome16/">http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/kagakunome16/</a>	小3～中	9月18日
10	第65回 全国学芸サイエンスコンクール <a href="https://www.obunsha.co.jp/news/detail/665">https://www.obunsha.co.jp/news/detail/665</a>	小・中	9月24日
11	第40回 海とさかな自由研究・作品コンクール <a href="https://www.umitosakana.com/">https://www.umitosakana.com/</a>	小学生	9月24日
12	第46回 「小さな親切」作文コンクール <a href="https://www.kindness.jp/activity/sakubun/sakubun-entry/">https://www.kindness.jp/activity/sakubun/sakubun-entry/</a>	小・中	9月24日
13	第13回 日本語大賞 <a href="https://www.koubo.co.jp/system/contest/nihongotaisho_13/">https://www.koubo.co.jp/system/contest/nihongotaisho_13/</a>	小・中	9月30日
14	第23回 酒折連歌(さかおりれんが)賞 <a href="http://www.sakaorirenga.gr.jp/">http://www.sakaorirenga.gr.jp/</a>	小・中	9月30日
15	第19回 地球となかよしメッセージ <a href="https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/nakayoshi/catel/index.html">https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/nakayoshi/catel/index.html</a>	小・中	9月30日
16	第13回 環境教育ポスターコンクール <a href="https://kodomo-zaidan.net/ourbusiness/career_path/poster/poster_apply">https://kodomo-zaidan.net/ourbusiness/career_path/poster/poster_apply</a>	小・中	9月30日
17	第8回 中学生・高校生 フォトコンテスト <a href="mailto:https://fujiwara-nh.or.jp/archives/2021/0621_160000.php%23!">mailto:https://fujiwara-nh.or.jp/archives/2021/0621_160000.php%23!</a>	中学生	9月30日
18	第29回 世界こども図画コンテスト <a href="https://www.koubo.co.jp/contest/art/drawing/108888.html">https://www.koubo.co.jp/contest/art/drawing/108888.html</a>	小・中	10月1日
19	「住みよい地球」全国小学生作文コンクール2021 <a href="http://www.iwatani.co.jp/jpn/kids/sakubun/index.html">http://www.iwatani.co.jp/jpn/kids/sakubun/index.html</a>	小学生	10月1日
20	第25回 図書館を使った調べる学習コンクール <a href="https://www.joes.or.jp/collection/kobo/detail/91">https://www.joes.or.jp/collection/kobo/detail/91</a>	小・中	10月4日

・学校名や住所などを書く場合は、次のように書いてください。

学校名 : バンコク日本人学校 住所 : 258 Soil7, Rama9Road, Bangkapi, Huaykwang, Bangkok 10310, THAILAND 電話番号 : (+66) 2-314-7334 (小学部 第1職員室) ※1年生, 2年生 (+66) 2-369-2751 (小学部 第2職員室) ※3年生, 4年生 (+66) 2-369-2750 (小学部 第3職員室) ※5年生, 6年生 (+66) 2-314-7335 (中学部 職員室) ※7年生, 8年生, 9年生
--

※以前は、コンクールで受賞した際に『受賞報告票』を提出していただいていたおりましたが、昨年度よりご提出の必要はなくなりました。

# 小学部 在宅学習アンケート結果

実施日： 令和3年7月6日～8日

回答者数： 保護者のべ1553名 児童1859名

## 要旨

前述の期間において、小学部保護者・児童を対象に、在宅学習に関するアンケートを実施しました。多数のご協力に感謝申し上げます。本資料では、学年共通設問に対する回答についてまとめています。なお、それ以外の設問については、Meet面談にて個別に相談、回答させていただきましたので、今回は割愛します。

アンケート回答結果をもとに総括すると、次のようにまとめることができます。

- ①授業配信や双方向の学習については、おおむね前向きに受け止めていただいている。
- ②在宅学習が家庭の多大なサポートによって維持されていることが改めてわかる。  
引き続き、学習や生活習慣のサポートも意識しながら、授業づくりに取り組んでいく。
- ③Meetを用いた配信への要望は一定数あり、学級経営の観点にも立ちながら、引き続き双方向性を生かした授業改善に取り組む。

保護者の皆様には、在宅学習期間の長期化に伴い、様々な面でご協力、ご配慮いただき、ありがとうございます。今後も、最大限の学習効果が得られるように、また子供たち同士が互いに高め合っていけるように、よりよい学習集団を目指して参ります。

# 1 課題の内容や分量について

## 1-1 課題の難易度について

「おおむね適切」と回答した児童がおよそ68%となる一方、「簡単」もしくは「難しい」と感じた児童もそれぞれ15%程度いることがわかります。

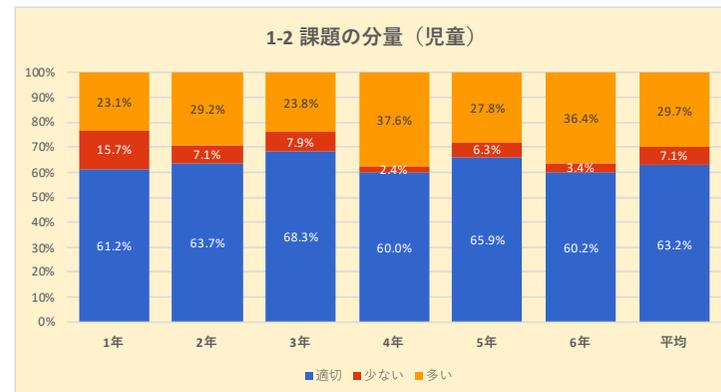
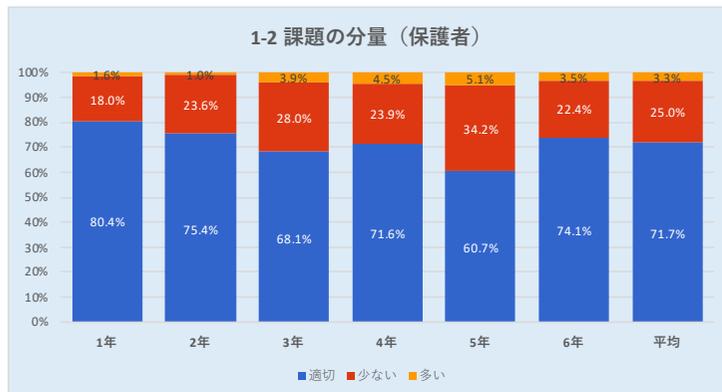
教員と児童、児童同士のコミュニケーションが取りづらい配信授業の中で、誰もが理解できるよう課題内容を検討してきましたが、さらに自分自身にあった課題レベルの選択ができるような課題設定の工夫も検討していきます。



## 1-2 課題の分量について

「おおむね適切」との回答割合が保護者と児童で大きな差が見られなかった一方、「多い」と答えた児童が平均約30%となっています。

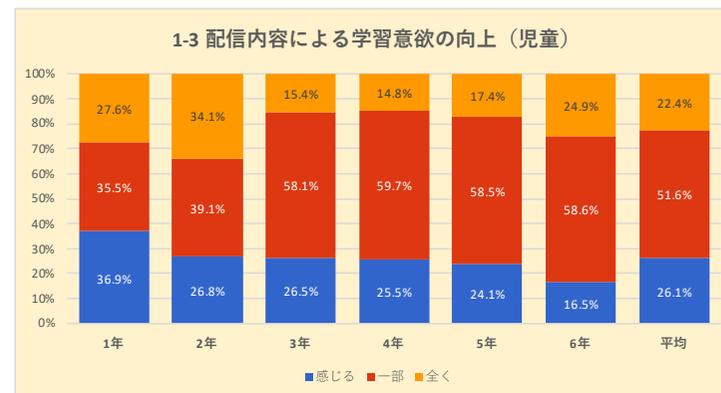
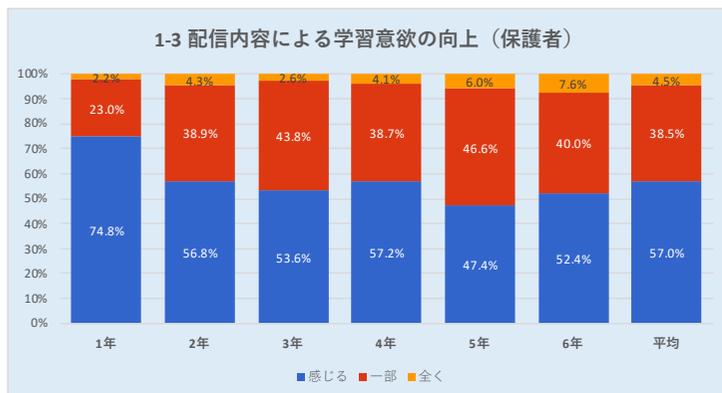
引き続き、1日あたりの学習内容や分量バランスの標準化を行なっていきます。学習内容の焦点化を図りながら、Meetなどで交流や相談の場を設けたりするなど、在宅であっても共に学ぶ意識が高められるような取り組みを検討していきます。



## 1-3 配信内容による学習意欲の向上

配信の内容が、学習意欲につながっているかに対し「おおむね」「一部」の合算で80%前後となっています。

教科の特性によっては、配信では学びの実感が得にくい内容もありました。一方で、繰り返し視聴することで、自分のペースで理解することができたとの声も聞かれました。いずれにせよ、保護者の皆様のサポートによって、お子さんの学習意欲向上につながったところが大きいと考えています。心より感謝申し上げます。

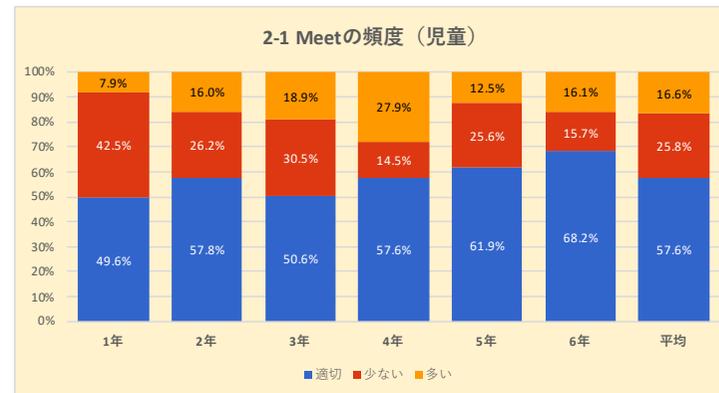
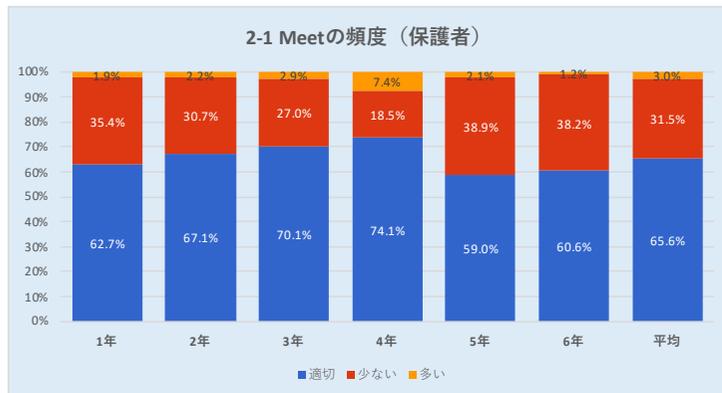


## 2 双方向の学習について

### 2-1 Meetの頻度について

現状の頻度で「おおむね適切」との回答が過半数ですが、さらに充実させてほしいとの声も、保護者・児童の双方で一定数見られます。

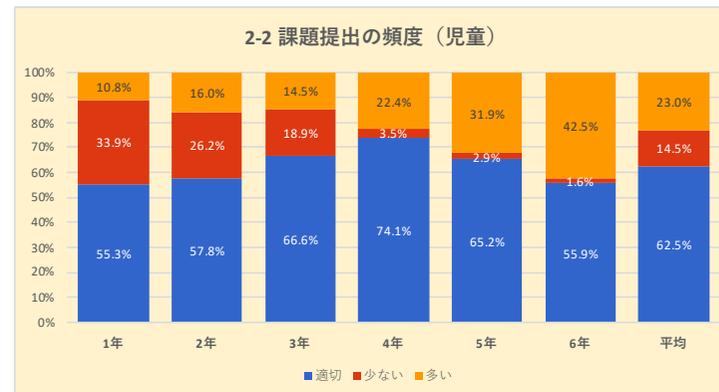
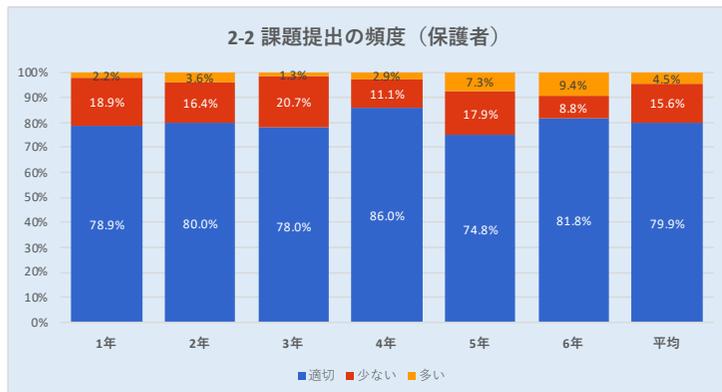
1学期は、児童同士のコミュニケーションの機会の確保を重視し、共に学んでいることが実感できるようにとMeetに取り組んできました。今後もその観点に立ち、各家庭の通信環境も考慮しながら、教科の特性に応じた形で活用の検討を進めていきます。



### 2-2 課題提出の頻度について

GoogleClassroomと学習用端末を組み合わせ、オンラインでの課題提出が可能となりました。「おおむね適切」が過半数を占めますが、「多い」と答えた児童も一定数見られます。

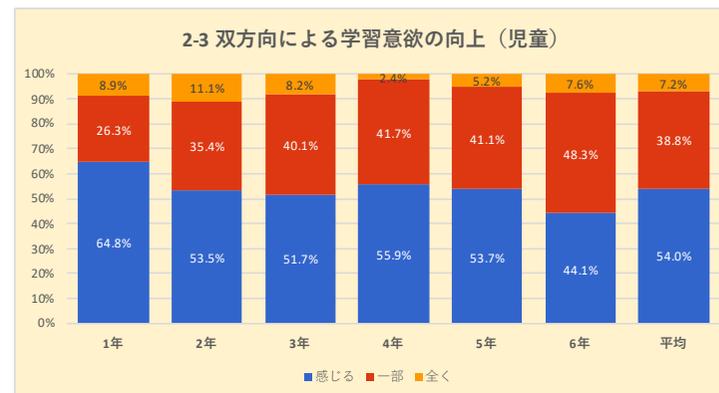
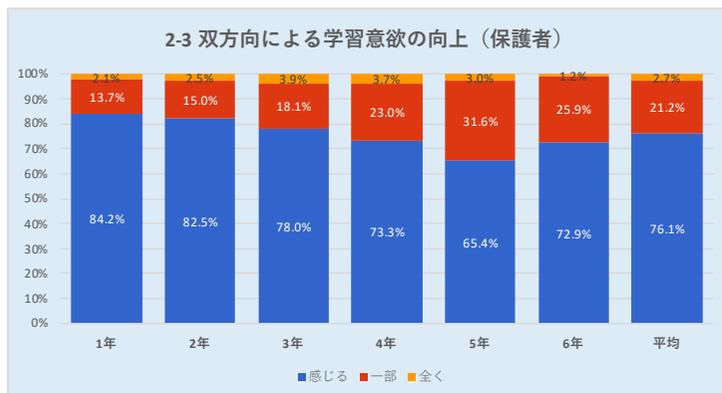
前述の通り、1日あたりの学習内容や分量バランスの平準化を図ると共に、課題解決の過程で、交流や相談ができるような場を設けるなど検討していきます。課題の指示や説明についても、より理解しやすいよう工夫していきます。



### 2-3 双方向による学習意欲の向上

回数を重ねるごとにMeet参加への緊張感も和らぎ、「おおむね感じる」「一部感じる」の結果からも前向きに捉えているとわかります。

今後も、一人一人が発言しやすい場の設定や、構成の工夫を続けていきます。形は違っても、Classroomも教室も同じ学習の空間です。保護者の皆様にしていただいたサポートを少しずつ減らし、児童が自律的に学ぶ姿を目指していきたいと思います。

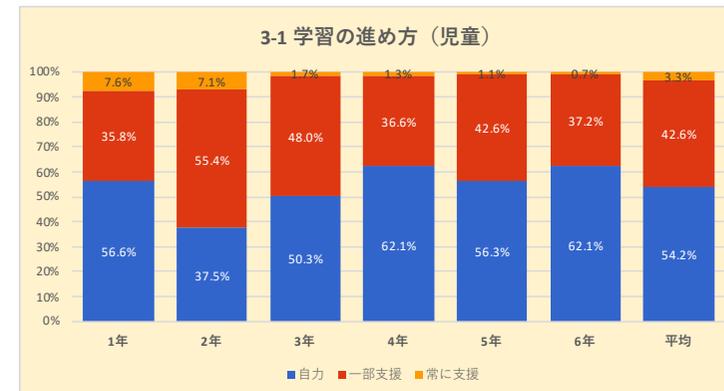
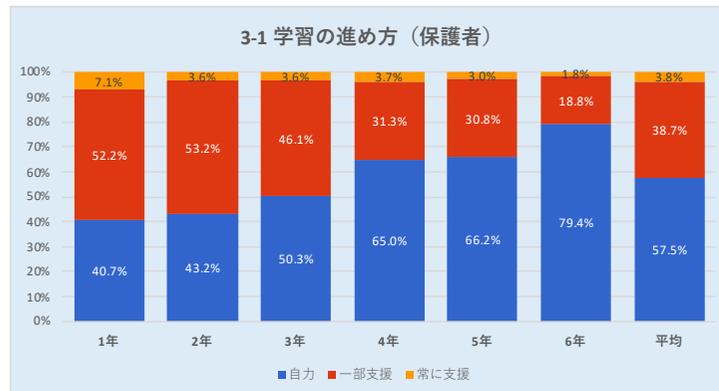


### 3 学習の進め方や生活リズムについて

#### 3-1 学習の進め方

特に低・中学年の保護者の皆様には、毎日きめ細かくサポートしていただいていることがわかります。また高学年も実習や制作活動でご協力いただきました。ありがとうございます。

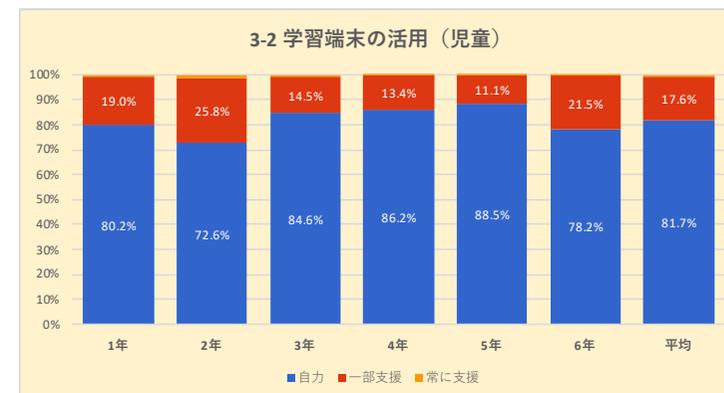
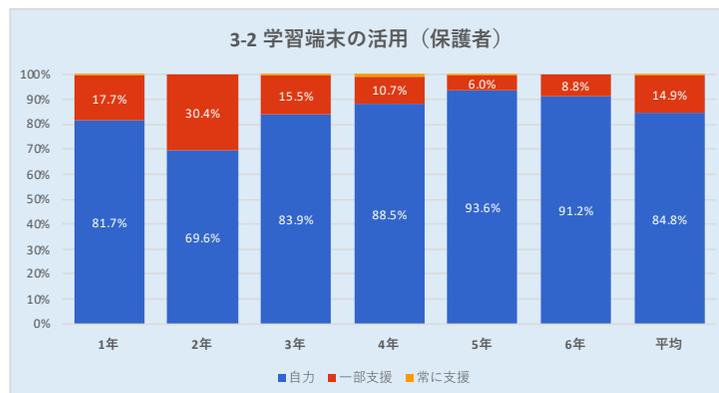
教科の特性に応じて、学習パターンの定型化や、相談Meetの実施など、自分で学びを進めていけるよう、学び方のサポートを随時行いきます。また児童同士をつなぐ機会を持つことで、共に学ぶ意識を高めていきます。



#### 3-2 学習用端末の活用について

一人一台の学習用端末を効果的に活用できていくことがわかります。

タイピングや、検索に必要な情報を得る、伝えたいことを適切にまとめるなどの力は、これからの学習に欠かせません。同時に様々なメディアとの付き合い方も考えていく必要があります。大人による一方的な規制や制限ではなく、児童自身が自立的に選択・判断・行動できるようにすることを目指し、学習の中でも適宜指導していきます。



#### 3-3 生活リズムについて

長引くステイホームと制限の中で、お子さんと一緒に家事をしたり、運動したりを続ける中で習慣となり、生活リズムの維持に役立っているとの声も伺っています。

学校でも、Meetを用いた朝の会の実施や、その中で一緒に体を動かす時間を設けるなど、「モチベーションアップ」や「習慣化」を念頭に、様々な形でサポートしていきます。

